

1 福島県総合計画改定案
2 第2章（めざす将来の姿）第3章（課題・取組の方向性）
3 項目たたき台
4

5 【編集方針】

第2章 めざす将来の姿

30年程度先の将来の姿を整理した箇所です。

計画策定の時点（H21.12）から、社会経済情勢は大きく変化していることから、現行計画の構成を参考としつつ、内容を全面的に書き直します。

第3章 課題・取組の方向性

1 課題【本日の議論部分】

分野毎に、本県を取り巻く課題（現状・問題点）を整理した箇所です。

計画策定の時点（H21.12）から、社会経済情勢は大きく変化していることから、現行計画の構成を参考としつつ、内容を全面的に書き直します。

編集にあたっては、以下の点に留意するものとします。

- ・ 全国共通の課題と本県特有の課題を区分します。
- ・ 文章化の際、分野を代表する課題について、定量的なデータを添付します。

2 取組の方向性

課題を前提として、分野毎に、様々な主体（県・国・市町村・民間事業者など）が、計画期間中に取り組んでいくべき方向性（施策の束）を整理した箇所です。

計画策定の時点（H21.12）から、社会経済情勢は大きく変化していることから、現行計画の構成を参考としつつ、内容を全面的に書き直します。

編集にあたっては、以下の点に留意するものとします。

- ・ 取組の方向性（施策の束）と施策（個々の施策：第4章で記載すべきもの）の区分を明確にします。
- ・ 文章化の際、課題と一体化を図ります。

第3章 ふくしまの基本方向（課題）



福島県総合計画改定案

第3章（課題）項目たたき台

- 現在直面する問題 ◎現在直面する問題ではないが、文脈上記述が必要な内容
（下線部分は東日本大震災と原子力災害の影響を踏まえた内容である）

1 人と地域

人と地域（1）結婚・出産・育児（子育て）

（全国的な課題）

- 婚姻件数と出生数の減少 ← 結婚に対する意識の変化（恋愛の自由化）、出会いの機会の減少、晩婚化、結婚の高いハードルと離婚のリスク、若者の収入の減少（先行きが不透明）
- 不安定な家庭環境は子どもの成長に悪影響 ← 一人親家庭（母子家庭）の貧困、離婚の増加
- ◎ 米国や欧州における出生数の回復 ← 手厚い子育て支援（欧州－公的機関、米国－民間）
- 仕事と家庭の両立が困難、家庭の育児負担の増加 ← 未だに職場優先、経済優先の風潮
- 夫婦が希望する子どもの数の減少 ← 出産・育児（子育て）の家計負担の増加など

（本県特有の課題）

- 子育て世代の県外流出、避難生活の長期化による家庭の分断、発達への影響（運動不足） ← 子どもの放射線被ばくに対する不安の高まり

- 1 ●現在直面する問題 ◎現在直面する問題ではないが、文脈上記述が必要な内容
2 (下線部分は東日本大震災と原子力災害の影響を踏まえた内容である)
3
4
5

6 人と地域（２）教育

7
8 (全国的な課題)

- 9 ● 「生き抜く力」「人間の絆」の重要性の高まり ← グローバル化の進展により
10 社会が必要とする人物像は変化
11 ● 社会的自立・職業的自立に向けた教育（キャリア教育など）の重要性 ← 将来
12 のために学習を行う意識の欠如、子どもの職業意識、職業観の未熟さ
13 ● さらなる学力向上の必要性 ← 学ぶ意欲・学習習慣の低下（雇用環境の変化な
14 どによる将来への不安が背景）
15 ● 地域の教育力の低下 ← 都市化の進展、核家族化などによる人間関係の希薄化
16 ● 優秀な教員の育成・確保が必要 ← 教育の質に対する社会的要求水準の高まり
17 ● 体力の低下 ← 体を動かす機会の減少
18 ● 社会の構成員としての自覚、道徳心、規範意識の欠如 ← 行き過ぎた個人主義
19 の風潮
20

21 (本県特有の課題)

- 22 ● 避難地域を中心に教育環境の整備の必要性 ← 他地域における学校再開、避難
23 世帯における学習環境の悪化
24 ● 震災を踏まえた教育の必要性 ← 震災の教訓の継承、復興に向けた産業振興な
25 どへの対応
26
27

- 1 ●現在直面する問題 ◎現在直面する問題ではないが、文脈上記述が必要な内容
2 (下線部分は東日本大震災と原子力災害の影響を踏まえた内容である)

6 人と地域（3）文化・スポーツの振興、人々の活躍の場づくり

7
8 (全国的な課題)

- 9 ◎ 文化・スポーツ活動の意義 ← 人や地域の交流機会の提供、地域社会や地域コ
10 ミュニティの活性化
11 ◎ 企業の文化・スポーツ活動への取り組み ← 企業の社会的責任（CSR）の考
12 え方の浸透
13
14 ● 高齢者の社会活動領域の拡大、第二の人生を自立的・健康的に過ごす必要性 ←
15 平均寿命の伸び
16 ● 若年層や高齢者の活躍の場が少ない ← 社会の硬直化（年功序列）
17 ● 生涯学習の需要の高まり ← 地域社会の教育力向上の必要性、充実した人生の
18 重要性（自己実現）

19
20 (本県特有の課題)

- 21 ◎ 本県の合唱・吹奏楽・陸上競技などの文化・スポーツ活動 ← 本県の知名度向
22 上に貢献
23 ● 本県の求心力の向上とアイデンティティ形成に貢献できるプロスポーツが不在
24 ← マリーゼの休部、その他プロスポーツの知名度の低さ
25 ◎ プロスポーツの振興は、県民の心を元気にする効果（心の復興）が期待される。

26
27 ● 被災地域を中心に伝統文化の継承に課題

28 ● 社会活動へ参加しやすい環境づくりの必要性 ← 震災を契機としてボランティ
29 アの機運の高まり

- 1 ●現在直面する問題 ◎現在直面する問題ではないが、文脈上記述が必要な内容
2 (下線部分は東日本大震災と原子力災害の影響を踏まえた内容である)
3
4
5

6 人と地域（４）まちづくり

7
8 (全国的な課題)

- 9 ● 中心市街地の活力の停滞（商業機能の低下、地価の下落、土地の流動性の低下）
10 ← モータリゼーションの進行、消費の郊外化
11 ● 都市のインフラ整備、維持管理コスト、環境負荷の増大 ← 都市機能の低密度
12 化
13 ◎ 地域社会でのNPO法人の役割拡大 ← 社会起業家、ソーシャルビジネスの浸
14 透
15 ◎ NPO法人 = 若年層や高齢者の雇用の受け皿として期待

16
17 (本県特有の課題)

- 18 ● 生活圏の中心都市では、人口流出が続いている ← 都市機能（重層的なネット
19 ワーク、国際的な活力の受け皿、商業など）の集積が不十分
20 ● 災害に強いまちづくりの必要性 ← 都市部への産業・人口の集中、大規模災害
21 の脅威
22 ● 地域づくり団体が長年築いてきた地域ブランドのイメージ低下 ← 原子力災害
23
24

1 ●現在直面する問題 ◎現在直面する問題ではないが、文脈上記述が必要な内容
2 (下線部分は東日本大震災と原子力災害の影響を踏まえた内容である)
3

4

5

6

人と地域（５）過疎・中山間地域の振興

7

8 (全国的な課題)

9

10 (本県特有の課題)

11 ● 維持・存続が危ぶまれる集落の出現 ← 人口減少・高齢化の急速な進行

12 ● 現役世代の流出 ← 少ない就業の場、改善が必要な生活基盤

13 ◎ 県土の保全や水源のかん養、土砂災害防止にとって重要な役割

14 ◎ 水力発電所立地地域は、自然環境が豊かで水源地域として重要な地域

15

16

17

18

- 1 ●現在直面する問題 ◎現在直面する問題ではないが、文脈上記述が必要な内容
2 (下線部分は東日本大震災と原子力災害の影響を踏まえた内容である)
3
4
5

6 **人と地域（6）「(仮称)避難区域等を有する市町村の区域」について※**
7

8
9 ※ 本項目では、H23 改定内容を前提に、避難区域等を有する市町村の区域特有の主要な課題を記載するものとする。具体的かつ詳細な内容は福島県復興計画で取り扱うべきもの。また、除染、防災・減災対策など全県的な課題については、別の項目で対応。
10
11
12

13 (全国的な課題)
14

15 (本県特有の課題)

- 16
17 ● 長期間、立ち入りが制限されている区域の発生 ← 放射性物質による深刻な土
18 壌汚染、高い放射線量
19 ● まちづくりを一からやり直す必要性 ← 長期間、立ち入りが制限されている区
20 域と帰還が可能な区域とに町（市）域が分断
21 ● 人口の急激な減少、若い世代を中心に帰還を敬遠する傾向 ← 放射性物質によ
22 る深刻な土壌汚染、高い放射線量、生活再建に対する不安
23
24
25

- 1 ●現在直面する問題 ◎現在直面する問題ではないが、文脈上記述が必要な内容
2 (下線部分は東日本大震災と原子力災害の影響を踏まえた内容である)

3 4 5 2 活力

6 7 活力（１）産業全般

8
9 (全国的な課題)

10 ◎ 地方では製造業や情報サービス業以外のサービス産業が基幹産業 ← 大企業の
11 東京一極集中

12 ● 産業の空洞化、海外投資の増加 ← 高いインフラコスト、貿易立国の限界、東
13 日本大震災後の電力不足

14 ● 地場産業の衰退 ← 高コスト（海外との競争）、ライフスタイル・嗜好の変化、
15 後継者不足

16 ◎ 海外展開する企業の増加（中小企業含む）

17 ● 卸売業・小売業の市場縮小（電子商取引の規模は拡大） ← 人口減少・高齢化、
18 ICTの浸透

19 ● サービス業の市場縮小（医療・福祉を除く） ← 人口減少

20 ◎ 我が国のソフトパワー産業は海外で高い評価 ← 我が国のブランド力の向上と
21 経済効果への期待

22 ● 起業活動の低迷、高い安定志向 ← 将来に対する不安の拡大、閉塞感

23
24 (本県特有の課題)

25 ● 本県の製造業の特性を生かしたさらなる集積の必要性 ← 現状では特定の分野
26 に偏ることなく集積

27 ● 医療・福祉機器産業の一定の集積、さらなる集積の必要性 ← これまでの積極
28 的な誘致の取組、将来的に市場拡大が見込まれる分野

29 ● 原子力発電所に替わる新たな産業振興・雇用創出の必要性 ← 原子力発電所の
30 稼働停止

31 ● 本県の産業全般に対する風評被害（マイナスイメージ）の解消の必要性 ← 原
32 子力災害

- 1 ●現在直面する問題 ◎現在直面する問題ではないが、文脈上記述が必要な内容
2 (下線部分は東日本大震災と原子力災害の影響を踏まえた内容である)

6 活力（２）農林水産業

7
8 (全国的な課題)

- 9 ● 従事者の高齢化（農林水産業）、耕作放棄地の増加（農業） ← 低い所得水準、
10 新規参入のハードルの高さ
11 ● 非効率的な経営（農業） ← 大規模集約、集団経営化の遅れ
12 ● 農業施設の維持管理が課題（農業） ← 老朽化

13
14 (本県特有の課題)

- 15 ◎ 全国有数の耕地面積、林野面積を保有（農林業）
16 ● 地域ブランド、付加価値品目の少なさ（農林業） ← 消費者視点の不足
17 ● 食の安全確保、食の信頼確保、PR強化の必要性（農林水産業） ← 東日本大
18 震災と原子力災害による塩害や放射性物質汚染などの被害
19 ● 水産業の操業停止、再開に向けた努力（水産業） ← 原子力災害

- 1 ●現在直面する問題 ◎現在直面する問題ではないが、文脈上記述が必要な内容
2 (下線部分は東日本大震災と原子力災害の影響を踏まえた内容である)
3

6 活力（3）再生可能エネルギー

7
8 (全国的な課題)

- 9 ● 電力不足、電力コストの上昇 ← 原子力発電所の稼働停止
10

11 (本県特有の課題)

12 ◎ 福島県復興ビジョンにおけるエネルギー政策の基本方針としての「脱原発」

- 13 ● 原子力に依存しない新しいエネルギーの利活用の必要性 ← 化石燃料の枯渇・
14 原子力発電所の危険性、電力不足、本県の再生可能エネルギー開発のポテンシャル

- 15 ● 再生可能エネルギーのさきがけの地を目指す ← 本県の原子力に依存しない地
16 域づくりは、今後の社会のモデルであり後世に対する社会的使命
17
18

- 1 ●現在直面する問題 ◎現在直面する問題ではないが、文脈上記述が必要な内容
2 (下線部分は東日本大震災と原子力災害の影響を踏まえた内容である)
3
4
5

6 活力（４）就業・人材育成

7
8 (全国的な課題)

- 9 ● 世界市場で通用する人材に対するニーズの増加 ← 経済のグローバル化の進展
10 ● 生活が不安定で、能力開発が困難な労働者（非正規雇用）の増加 ← 経済のグ
11 ローバル化の進展
12 ● 就業率の低下 ← 雇用環境の悪化、労働環境の悪化、雇用のミスマッチ
13 ● 高度な技術を持った人材に対する需要の高まり ← 雇用の二極化
14 ● 知識や技能の継承 ← 後継者の不足（第一次産業・第二次産業）、退職者の増
15 加（第二次・第三次産業）
16

17 (本県特有の課題)

- 18 ● 労働力人口の県外流出、大卒者を中心に人材が県内に還流しない状況 ← 大卒
19 者のニーズに見合った就職先の不足、雇用のミスマッチ
20 ● 生産年齢人口（労働力人口）の減少の見込み ← 少子化、原子力災害などを原
21 因とする人口流出
22
23
24

- 1 ●現在直面する問題 ◎現在直面する問題ではないが、文脈上記述が必要な内容
2 (下線部分は東日本大震災と原子力災害の影響を踏まえた内容である)
3
4
5

6 活力（５）観光・交流

7

8 (全国的な課題)

- 9 ● 観光産業の活性化に対する期待 ← 地方経済の停滞、外国人の訪日旅行者数の
10 増加（震災前）
11 ● 交流人口の拡大に対する期待 ← 地方経済の停滞、高速交通網の整備
12 ● 観光産業は景気変動、風評に弱い点に特徴
13

14 (本県特有の課題)

- 15 ◎ グリーンツーリズム、教育旅行などによる交流人口の拡大 ← 豊かな自然環境、
16 多様な観光資源
17 ● 観光コンテンツの少なさ、知名度の低さ ← 固有性・独自性を有する観光資源
18 に開発の余地、二次交通手段の不足、おもてなしの心に改善の余地
19 ● 本県への旅行者数・ツアーの減少・風評被害（一方で視察者は増加） ← 東日
20 本大震災。原子力災害、福島空港発着の国際線の運休
21 ● 新たな交流人口の拡大に対する期待 ← 震災を通じて生まれた新しい絆の活用
22
23

- 1 ●現在直面する問題 ◎現在直面する問題ではないが、文脈上記述が必要な内容
2 (下線部分は東日本大震災と原子力災害の影響を踏まえた内容である)
3
4
5

6 活力（6）交通基盤・情報通信基盤の整備と活用

7

8 (全国的な課題)

9 ◎ 高速交通ネットワーク・物流拠点の整備状況（リニア、新幹線、港湾など）

10 ● 交通基盤の維持管理が課題 ← 老朽化

11 ● 大規模災害時における高規格道路、道の駅、空港の有用性、情報通信基盤の脆弱
12 性 ← 東日本大震災の教訓
13

14 (本県特有の課題)

15 ◎ 本県における高速交通ネットワークの整備状況（東北中央自動車道、常磐自動車
16 道など）

17 ● 道路改良とICTを活用した道路情報の提供の必要性 ← 定時性確保のため

18 ● 福島空港は、交流・物流の拠点として整備されたが、十分な活用が図られていな
19 い状況 ← 利便性・物流コスト

20 ● 小名浜港、相馬港は、港湾機能の高度化が求められている状況 ← 取扱貨物量
21 の増加や、船舶の大型化に対応できる岸壁の不足

22 ● 小名浜港、相馬港の被害、横の連携軸では規格の高い道路の整備が求められる
23 ← 東日本大震災

24 ● 鉄道の不通区間の発生 ← 東日本大震災・豪雨災害
25
26
27

- 1 ●現在直面する問題 ◎現在直面する問題ではないが、文脈上記述が必要な内容
2 (下線部分は東日本大震災と原子力災害の影響を踏まえた内容である)

3 安全と安心

安全と安心（１）健康づくり・健康管理

9 (全国的な課題)

- 10 ● 健康寿命を伸ばしていく重要性 ← 平均寿命の伸び、医療・介護の負担軽減の
11 必要性
12 ● がん健診、特定健康診査の受診率の伸び悩み ← 国民の意識の問題
13 ● 広域的に、インフルエンザなどの感染症が度々流行 ← ワクチンの効果に限界

15 (本県特有の課題)

- 16 ● 原子力災害により、県民の多くが放射線の影響について不安 ← 広範な地域で、
17 環境放射線量は平常値を上回る状況（低線量被ばく）

- 1 ●現在直面する問題 ◎現在直面する問題ではないが、文脈上記述が必要な内容
2 (下線部分は東日本大震災と原子力災害の影響を踏まえた内容である)
3

6 安全と安心（２）医療

7
8 (全国的な課題)

- 9 ● 公立病院や産科・外科・小児科などを中心に、医師の不足 ← 医師の地域偏在
10 ● 医療従事者の勤務環境の悪化 ← 医療の需要増、医療従事者の不足（大都市へ
11 の集中）、医療安全に対する社会的要求のレベルの上昇
12

13 (本県特有の課題)

- 14 ◎ 医師の絶対数の不足 ← 医師の都市部集中など
15 ◎ 本県のこれまでの医療確保に向けた取り組み ← 医療従事者の確保、小児・周
16 産期医療体制の整備、救急医療体制の強化
17 ● 浜通り地方を中心として医療体制の危機 ← 東日本大震災、原子力災害
18 ● 放射線医学に関する先進地域として発展に期待 ← 原子力災害の克服
19
20
21

- 1 ●現在直面する問題 ◎現在直面する問題ではないが、文脈上記述が必要な内容
2 (下線部分は東日本大震災と原子力災害の影響を踏まえた内容である)
3
4
5

6 安全と安心（3）福祉

7

8 (全国的な課題)

- 9 ● 介護サービス、介護施設、介護を担う人材の需要が増加 ← 高齢化
10 ● 介護の人材不足 ← 待遇に改善の余地
11 ● 介護は家族にとって重い負担、今後、家族の枠を超えた社会保障の重要性が高ま
12 る ← 在宅介護の場合、家族の体力的・精神的な負担は大きく、仕事などの社会
13 活動も制約
14 ● 障がい者の社会参加が進んでいない ← 活躍の場が少ない、社会の負担感

15
16 (本県特有の課題)

- 17 ● 浜通り地方を中心に福祉サービスの提供体制が弱体化 ← 東日本大震災、原子
18 力災害
19
20
21

- 1 ●現在直面する問題 ◎現在直面する問題ではないが、文脈上記述が必要な内容
2 (下線部分は東日本大震災と原子力災害の影響を踏まえた内容である)

6 安全と安心（４）日常生活の安全と安心

7
8 (全国的な課題)

- 9 ◎ 我が国は世界有数の犯罪に対して安全な社会、犯罪の減少による体感治安の向上、
10 一方で防犯対策への関心の高まり
11 ◎ 交通事故は減少傾向、一方で高齢者の関与する事故の多発、さらなる交通安全対
12 策の必要性 ← 自転車の安全利用対策、交通安全施設の整備、飲酒運転防止対策、
13 シートベルト等の着用向上対策など
14 ◎ 火災件数の減少（高齢者世帯の火災は増加） ← 建築物の耐火性の向上、ガス
15 の安全対策
16 ● 食の安全に対する関心の高まり ← 食品表示の偽装問題、食中毒の発生
17 ● 情報資産のセキュリティ対策の重要性の高まり ← サイバー攻撃、不正アクセ
18 ス
19 ● 悪質商法の複雑化、巧妙化が進行

20
21 (本県特有の課題)

- 22 ◎ 犯罪の減少による体感治安の向上 ← 県民の自主防犯意識の高揚、地域の連帯
23 意識の醸成
24 ● 避難区域では、治安の維持が課題 ← 窃盗事件などが発生
25 ● 放射性物質から安全な食品のモニタリング・流通の徹底が求められる ← 原子
26 力災害に対する関心の高まり、健康不安

- 1 ●現在直面する問題 ◎現在直面する問題ではないが、文脈上記述が必要な内容
2 (下線部分は東日本大震災と原子力災害の影響を踏まえた内容である)

6 安全と安心（５）原子力災害対策

7
8 (全国的な課題)

- 9 ● 本県の現状に対して正確な理解が得られていない ← 放射線に対する正しい理
10 解の欠如、不正確な情報の拡散
11 ● 国際的な第三者機関（IAEA）による安全監視の必要性 ← 政府・東京電力の力
12 だけでは原子力災害の収束は困難、原子力行政に対する信用の失墜。

13
14 (本県特有の課題)

- 15 ● 県民は、放射線被ばくの不安と向き合うことを余儀なくされている状況、一日も
16 早い原子力災害の収束、生活環境の回復が必要 ← 福島第一原子力発電所事故に
17 よる甚大な被害
18 ● 着実な廃炉作業への移行が必要 ← 脱原発、原子力発電所は継続的な監視が求
19 められる状況
20 ● 放射性廃棄物の処理の問題 ← 除染
21 ● 原子力災害の克服に向けて、世界の叡智を結集する必要性 ← 原子力災害に対
22 する世界的な注目と収束に向けたさまざまな実証実験

- 1 ●現在直面する問題 ◎現在直面する問題ではないが、文脈上記述が必要な内容
2 (下線部分は東日本大震災と原子力災害の影響を踏まえた内容である)
3
4
5

6 安全と安心（6）大規模災害対策・危機管理体制

7

8 (全国的な課題)

- 9 ● 広域的な支援・応援体制の構築 ← 今後も大規模災害は不可避
10 ● 防災・減災対策の強化 ← 今後も大規模災害は不可避
11 ● 深刻な状態（最悪の事態・複合災害）を想定した防災訓練の必要性 ← 今後も
12 大規模災害は不可避
13 ● 情報伝達手段の確保などの対策強化 ← 今後も大規模災害は不可避
14 ● サプライチェーンの分断への対策強化 ← 今後も大規模災害は不可避
15 ● 社会基盤の計画的な維持・管理（長寿命化）の必要性 ← 老朽化
16 ● 化学工場などの事業所における安全対策の重要性 ← 周辺環境への影響の懸念

17
18 (本県特有の課題)

- 19 ● 全県的な防災・減災対策の強化 ← 震災により本県の社会基盤は大きな被害
20 ● 沿岸地域の防災・減災対策の強化 ← 津波被害の発生、迅速な避難などの課題
21 ● 災害に強い危機管理体制の構築 ← 停電や物流途絶の中での救助体制、復旧体
22 制の構築、物流の確保
23
24

- 1 ●現在直面する問題 ◎現在直面する問題ではないが、文脈上記述が必要な内容
2 (下線部分は東日本大震災と原子力災害の影響を踏まえた内容である)
3
4

5 4 思いやり

7 思いやり（１）多様性の尊重

8
9 (全国的な課題)

- 10 ◎ 病気や障がいなどに対する偏見と差別の解消に向けた我が国の取り組み
11 ● 家庭内暴力や児童虐待の増加 ← 不安定な雇用・収入、ストレスの蓄積などの
12 要因
13 ● 我が国では女性の社会参画が低調 ← 社会の仕組み、文化、男女それぞれの意
14 識
15 ● 男性も女性も意欲と能力に応じて、活躍できる社会づくりが求められる ← 制
16 度上では男女間の雇用機会の格差は解消されたものの、待遇などの面では改善の余
17 地
18 ● 世界の活力を本県に呼び込む必要性、国際化の必要性 ← 人口減少・高齢化、
19 国内市場の縮小
20 ◎ 生活のさまざまな分野において、ユニバーサルデザインの考え方の広がり

21
22 (本県特有の課題)

- 23 ● 原子力災害を原因とする県民に対する偏見 ← 根拠のない思い込み
24
25

- 1 ●現在直面する問題 ◎現在直面する問題ではないが、文脈上記述が必要な内容
2 (下線部分は東日本大震災と原子力災害の影響を踏まえた内容である)
3
4
5

6 思いやり（２）思いやりと支え合い

7 (全国的な課題)

- 8 ● 自殺者数の増加 ← 不安やストレスによる精神的疲労を抱え込む傾向が強まる
9 ● 雇用格差や所得格差の拡大、一方で人材の流動化は進まず ← 経済のグローバ
10 ル化の進展、長年にわたる企業の構造改革
11 ● うつ病、過労死、過労自殺の深刻化 ← ストレスによる健康障害を患う労働者
12 が増加
13 ● 児童福祉の必要性の高まり ← 所得の低い家庭の増加、家庭と地域のつながり
14 の希薄化
15 ● 特別支援教育の必要性 ← 障がいのある子どもたちの自立、社会参加促進
16 ● ニート、引きこもりの増加 ← やり直しのきかない社会という認識、自己責任、
17 社会の閉塞感
18 ● 高齢者を中心とした孤独死問題の顕在化、現役世代の孤立化 ← 無縁社会の広
19 がり
20 ● 高齢世帯を中心として、買い物難民（御用聞き需要）の増加
21 ● 過剰なコンプライアンス意識が、支え合いの活動を抑制 ← 個人情報保護など
22

23 (本県特有の課題)

- 24 ● 県外に避難した住民の県内帰還、県内では帰還を支援する体制づくりが必要 ←
25 原子力災害後、若い世代を中心に大量の人口流出、本県の活力低下
26 ● 避難住民のコミュニティづくりの必要性 ← 避難住民同士のつながりの希薄化、
27 孤立化
28 ◎ 震災を契機として、家族・地域・絆の重要性を再認識
29
30
31
32
33

1 ●現在直面する問題 ◎現在直面する問題ではないが、文脈上記述が必要な内容
2 (下線部分は東日本大震災と原子力災害の影響を踏まえた内容である)

3

4

5

6 思いやり（3）自然環境・景観の保全、継承

7

8 (全国的な課題)

9

10 (本県特有の課題)

11 ◎ 本県の豊かな自然環境保全の取組み、磐梯山ジオパークの認定

12 ● 自然公園や海などの利用制限（一部地域） ← 原子力災害

13 ● 県内景観資源の保全と継承の重要性

14 ● 湖沼等の水環境、大気環境の保全の重要性

15 ● 野生動植物の保護の重要性

16 ● 放射性物質による生態系への影響の懸念 ← 原子力災害

17 ● 震災（津波）による沿岸地域の生物多様性への影響の確認。

18

19

- 1 ●現在直面する問題 ◎現在直面する問題ではないが、文脈上記述が必要な内容
2 (下線部分は東日本大震災と原子力災害の影響を踏まえた内容である)
3
4
5

6 思いやり（４）循環型社会

7

8 (全国的な課題)

9 ◎ 我が国では石油危機以降、省資源・省エネルギー対策を積極的に推進

10 ● 地球環境の保全と経済成長が調和した持続可能な社会の重要性 ← 地球温暖化
11 の進行、異常気象の発生

12 ● 一般廃棄物・産業廃棄物の最終処分場の新規設置が困難

13 ● リサイクルの重要性の高まり ← 一般廃棄物・産業廃棄物の排出量の横ばい状
14 況、処分場の容量の減少、資源価格の上昇

15
16 (本県特有の課題)

17 ● 森林資源のバイオマス燃料などとしての価値の高まり ← 再生可能エネルギー
18 の導入推進

19 ● 有機農業など環境に配慮した経済活動が停滞 ← 原子力災害
20